テスト雑感

牛島義友

新入学新入園を控えて、どこでもテストが大問題になつている。入学試験のかわりになる知能検査に合格させたいとの願から、親達は半年も一年も前からテストに関心を持ち、家庭ではテスト問題集を買つてきてやらせてみたり、幼稚園にはやかましくせがんでテストの練習をしてもらい、児童相談所、教育相談所に一度はでかけてみてもらわなくてはといつた調子である。おかげで私達の関係している愛育研究所の教養相談は来訪者が殺到して、むしろ迷惑を感じている。本当の意味の教養相談を受けたい人も、単純な進学相談者のために、後まわしにさせられる状態である。

我が子の能力を、知能検査して科学的に判定してもらい、それによつて子供の教育の事を考えようとするのは大変進歩的な態度である。しかし中には、入学（入園）試験に知能検査をされるから、その準備として模擬試験のつもりで来る人もあるし、又どうしたらテストの成績がよくなるかと、その練習方法を尋ねる人もある。知能検査の正しい意味を理解する人ならば、練習によつてテスト成績を上げるなどはナンセンスな事だと考えられる筈であるが、世の親たちにはそうでない人が多い。

又採用する側で、知能検査をして優秀な児童をとろうとする態度は一応もつともの様で困つた態度ではなかろうか。単純な面接やよいかげんな質問で合格不合格を決めるよりは、知能検査によつた方がより信頼出来る結果が得られよう。特殊な学校が知能検査によつて特殊な子供を集めるのはよい事である。例えば精神薄弱児のための特別な学校で知能検査をして知能指数が七〇以下のものを集めようとするのは当然の事である。特殊な英才教育機関が知能の優秀児童を集めてみるのも悪くはない。しかし普通の幼稚園や小学校で優秀児のみを集めようとする態度はどんなものであろうか。特に附属小学校などで優秀児を集めて安易な教育をしたところで教育の模範にもならないし、非優秀児を配当された普通小学校の教育を困難にするだけである。更にテストの弊害、即ちつまらぬテストの準備に親をほんめいさせている事を思うと、かゝる状態は一日も早く止めてほしいものである。

知能検査は入学後に行つて各児童の能力に応じた教育

指導をした時に本当に教育に役立つし、父兄からも喜ばれるものであろう。入園や入学に客観的なテストをしないとするならば情実に左右された不公平な入学になるという事もよく言われる事である。公平という事を考えるならむしろ完全抽籤法によつた方が公平であろう。今日附属小学校などで抽籤法などを取入れているのは今迄よりはよりよい方法であろう。

しかし厳密な知能検査や学力検査によらなければ公正な選抜が出来ないと考えるのは教育者としての自信のない考え方ではなかろうか。今日教師達は口では、教育とは単なる知識教育ではなく、性格、社会性の育成、人格の陶冶に力を注いでいると言う。この主張に信念を持つて居れば学力以外の社会性や人格の点から受験者を判定してもよい筈である。

私の関係している某幼稚園では、入園希望者を出来れば全部収容して保育してやりたいがそれが出来ぬ場合には保育の必要度によつて採否を決めることにしている。

保育の必要度といつてもいろんな事が考えられる。もし保育所であるならば保育所設立の趣旨から生れた保育必要度の軽重が定まつて来よう。即ち母親が職場で働いているもの、或は保育者のいない者のために設立されたものであるから、こういう家庭のものを優先的に保育してやればよろしい。しかし普通の幼稚園では家庭生活の補いをなし社会性をつけるのが主な目的であるから、家庭生活だけでは充分社会性がつかないもの或は家庭の教育態度が適当でなく、教育的援助を必要とするものを優先的に入園させることとしてある。かゝるに保育の必要度を厳密に判定する事は容易ではないが、一応客観的生活条件から考える。即ち一人子は社会性をつけるために幼稚園保育を最も必要とする子であり、長子も又これに準じよう。その他長い間隔をおいて生れた末子も問題をもつているし、その他母親のいない家庭なども勿論幼稚園の援助を最大限に必要とするものであろう。その他外見上はよい家庭環境であつても心理的問題をもつた子も少くなかろう。

この保育の必要度によつて選抜するというのは一つの試みではあるが、その他特に私立の学園では、設立の趣旨に従つた独自の教育方針がある筈だし、それに応じた採用方法も、教育的信念と自信をもつて設定する事が出来る筈であろう。このようにしていわゆる知識へんちょうの教育や保育が真の意味の人間教育になるものではなかろうか。幼稚園や小学校時代から知識だとか知能だとかに追いかけられる事から解放された、ほんとうに伸びとした人間性の豊かな教育を望みたい。